

## 4. 専 門 分 野 Ⅱ

授 業 科 目		単 位	時 間
成人看護学  (臨地実習)	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論Ⅰ(急性期にある対象の看護)	2	45
	成人看護学援助論Ⅱ(回復期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ(慢性期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学援助論Ⅳ(終末期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学実習Ⅰ(成人期の特徴をふまえた看護)	2	90
	成人看護学実習Ⅱ(急性期・回復期の看護)	2	90
	成人看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期の看護)	2	90
	小 計	12	435
老年看護学  (臨地実習)	高齢者看護学概論Ⅰ(老年期、加齢の概念)	1	15
	高齢者看護学概論Ⅱ(高齢者と社会)	1	15
	高齢者看護学援助論Ⅰ(日常生活援助と終末期看護)	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅱ(治療処置別、症状別看護)	1	30
	高齢者看護学実習Ⅰ(高齢者の理解)	1	45
	高齢者看護学実習Ⅱ(高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135
	小 計	8	270
小児看護学  (臨地実習)	小児看護学概論Ⅰ(小児看護の役割)	1	15
	小児看護学概論Ⅱ(小児の成長と発達)	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ(疾患の理解と症状別看護)	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ(健康の段階、発達段階に応じた看護)	1	30
	小児看護学実習	2	90
	小 計	6	195
母性看護学  (臨地実習)	母性看護学概論	1	15
	母性看護学援助論Ⅰ(母性のライフサイクルと看護)	1	30
	母性看護学援助論Ⅱ(妊娠期、分娩期の看護)	1	30
	母性看護学援助論Ⅲ(産褥期、新生児期の看護)	1	30
	母性看護学実習	2	90
	小 計	6	195
精神看護学  (臨地実習)	精神看護学概論Ⅰ(精神看護の基本概念と精神の健康支援)	1	30
	精神看護学概論Ⅱ(精神保健福祉活動の動向)	1	15
	精神看護学援助論Ⅰ(精神疾患の理解と精神看護の特徴)	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ(疾病の経過に応じた看護)	1	30
	精神看護学実習	2	90
	小 計	6	195
合計		38	1290

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
成人期の健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
成人 アイデンティティの確立 仕事 家族 アンドロロジー 生活習慣 ストレス 危機理論 保健・医療・福祉システム ヘルスプロモーション					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 成人期の対象の特徴が理解できる。	(1) 生涯発達の視点からみた成人期	①青年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達 ②壮年期・中年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達	講義	
		(2) 成人の生活	①家族の中で成人の果たす役割 ②人として働くことの意味 ③働く成人の生活 ④成人の健康行動	講義	
		(3) 成人をめぐる衛生統計の概要	①人口と平均寿命 ②死因・死亡率 ③受療率	講義	
		(4) 成人の健康な生活を脅かす要因と健康問題	①就労や労働形態の変化がもたらす健康問題 ②生活習慣がもたらす健康問題 a) 飲酒 b) 喫煙 c) 運動不足 d) 肥満	講義	
	2. 成人看護に必要な基礎理論が理解できる。	(1) ストレス	① 成人の生活ストレス ②ストレスコーピング	講義	
		(2) 危機理論	①危機の定義 ②危機状態の特徴 ③危機モデル アギュララとメズイックのモデル フィンクのモデル ④危機への働きかけ a) 危機介入の原則 b) フィンクの危機モデルを活用した介入	講義	

		(3) 学習に基づく行動形成	①行動の成立 ②行動の動機 ③観察学習	講義
		(4) 成人教育理論 (アンドラゴジー)	①アンドラゴジーの定義 ②アンドラゴジーにおける成人の特徴 ③アンドラゴジーモデルにおける 学習プログラムの要素	講義
	3. 成人看護の特徴が理解できる。	(1) ヘルスプロモーション	①健康増進への主体性を高めるための支援 ②健康生活の具体的な支援 a) 食生活 b) 運動 c) 休養 d) ストレスマネジメント	講義 演習
		(2) 健康問題を持つ対象の看護	①倫理的判断 ②意思決定支援	講義
	4. 成人期における保健医療福祉システムが理解できる。	(1) 保健に関わる対策と実際	①健康増進・生活習慣病対策 ②健康危機管理 ③感染症対策 ④高齢者の医療の確保に関する法律に伴う保健事業	講義
		(2) 医療にかかわる対策	①医療法の改正に伴う施策の変遷 ②難病対策	講義
		(3) 福祉にかかわる対策	①障害者福祉 ②高齢者福祉	講義
		(4) 保健・医療・福祉の連携と実際	①生涯発達・健康状態からみた保健・医療・福祉システムの提供と実際 ②保健・医療・福祉システムの重要性	講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅰ (急性期にある対象の看護)	担当 講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	2単位 45時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
急性期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
急性期 周手術期 生命の危機 苦痛 不安・恐怖 家族の不安 急性期の看護技術					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 急性期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 急性期にある成人期の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 生命の危機 b) 身体の苦痛 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面の特徴 a) 社会的役割への葛藤 b) 不安 c) 家族の不安		講義
		(2) 急性期にある成人期の対象の看護	①症状の観察と救命 ②苦痛の軽減 ③不安・恐怖の軽減 ④セルフケアの援助 ⑤家族への援助		講義
		(3) 循環器系で急性期にある成人期の対象の事例展開	①急性心筋梗塞で中年期にある対象(男性)の事例展開		講義 演習
		(4) 心臓リハビリテーションを受ける対象の看護	①心臓リハビリテーションの目的 ②心臓リハビリテーションの実際と看護		講義
		(5) 周手術期にある成人期の対象の看護	①全身麻酔のSCPをもとに肺癌で肺切除術を受ける対象の計画立案 ・術前 ・術直後 ・術後		講義
	2. 急性期にある成人期の対象の看護に必要な技術を習得できる。	(1) 急性期看護に必要な援助技術	①胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置の目的 ②胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置中の看護、ドレーン管理 〈創傷処置〉 ③排痰の援助 〈吸引(口腔・鼻腔・気管内)〉 〈体位ドレナージ〉 ④〈簡易血糖測定〉 ⑤〈輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換〉		講義  演習 講義 演習
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術」 照林社 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			



分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅲ (慢性期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		慢性期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		慢性期 生活習慣 自己管理 自己効力理論 エンパワメントモデル 学習支援			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 慢性期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 慢性期にある成人期の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 合併症・二次的障害の出現 b) 慢性的な症状による苦痛 ②心理・社会面の特徴 a) ライフスタイルの変更 b) 役割遂行の困難 c) 不安	講義	
		(2) 慢性期にある成人期の対象の看護に必要な理論と活用	①病みの軌跡 ②自己効力理論の活用 ③エンパワメントモデルの活用	講義	
		(3) 慢性期にある成人期の対象への学習支援	①学習支援の目標 ②学習支援の場 ③学習支援の時期 ④学習支援の進め方 a) アセスメント b) 目標の設定 c) 学習支援の計画立案 d) 実施 e) 評価	講義	
		(4) 慢性期にある成人期の対象の看護	①疾病の自己コントロールのための援助 ②ライフスタイルの変更への援助 ③不安の軽減 ④家族や社会との調整	講義	
		(5) 内分泌系で慢性期にある成人期の対象の事例展開	①糖尿病で中年期にある対象(男性)の事例展開	講義 演習	
		(6) 腎不全で慢性期にある成人期の対象の看護	①シャントの管理 ②食事療法 ③ライフスタイル変更への援助 ④社会資源の活用	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論Ⅳ (終末期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		終末期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		終末期 全人的苦痛 死の受容 グリーフケア 化学療法 骨髄抑制			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 終末期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 終末期にある成人期の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 全身的な苦痛・身体の変化 b) 生命の危機 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面の特徴 a) 死の受容過程 b) 役割の喪失 c) 家族の不安・悲嘆	講義	
		(2) 終末期にある成人期の対象の看護	①全人的な苦痛の軽減 ②死の受容への援助 ③QOLの向上 ④役割変更に対する援助 ⑤家族への援助 ⑥グリーフケア ⑦病状の観察	講義	
		(3) 臨終時の看護	①死の3兆候 ②死亡に伴う身体的変化 ③エンゼルケア ④退院時の見送りと手続き	講義	
		(4) 大腸がん、肝転移で終末期にある成人期の対象の看護	①全身倦怠感への援助 ②痛みへの援助 ③食欲不振への援助 ④死の不安への援助 ⑤QOLの向上への援助 ⑥家族への援助 ⑦セルフケアへの援助	講義	
		(5) 造血器腫瘍で化学療法をうける成人期の対象の看護	①抗ガン剤による被爆と取り扱い上の注意点 ②抗ガン剤漏出の予防と対処 ③化学療法による副作用 ④化学療法による副作用に対する援助 a) 易感染 b) 易出血 c) 悪心・嘔吐 等 ⑤不安への援助	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔5〕 消化器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔4〕 血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」 メヂカルフレンド社			
評価の方法		筆記試験100%			

実習名 成人看護学実習 I (成人期の特徴をふまえた看護)

時期	2年 前期
単位(時間)	2単位 (90時間)

目的：健康障害をもつ成人期の対象の看護を実践する能力を養う。

目標	行動目標
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、情報を収集することができる。	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護プロフィールを述べることができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、各機能的健康パターンに必要な情報を述べることができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、逸脱した情報を述べるができる。 4. 疾患や治療をふまえ、対象者の状態を分析するために、共同問題において必要な情報を述べるができる。
2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、アセスメントをし、問題を明確にできる。	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ共同問題につながる情報を分析することができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・看護援助（ケア）につながる情報を分析し、統合することができる。 3. 分析をふまえ、問題を明確にできる。 4. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べるができる。
3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、計画を立案できる。	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を解決するための目標を述べるができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、具体策を述べるができる。
4. 成人期の特徴と健康障害をふまえた援助が実施できる。	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施前に対象者の状況を確認できる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、計画（援助の方法）にそって援助が実施できる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 日々の援助を評価するための事実を述べることができる。 6. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施した援助を評価できる。 7. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者の変化に合わせて援助方法が変更できる。
5. 人間関係を成立させるための行動ができる。	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。 2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。



実習名 成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期の看護）

時期	3年 前期
単位(時間)	2単位（90時間）

目的：急性期・回復期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者のアセスメントができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病態および治療とその影響について述べるができる。</li> <li>2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題に影響する因子について述べるができる。</li> <li>3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を明確にすることができる。</li> </ol>
2. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、計画に基づいて実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、実施前に対象者の状況を確認し、必要時は援助の変更ができる。</li> <li>2. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。</li> <li>3. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、対象者の反応を確認しながら実施できる。</li> <li>4. 実施した看護を報告できる。</li> <li>5. 日々の看護を評価するための事実を簡潔に述べるができる。</li> <li>6. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、看護の評価ができる。</li> <li>7. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、対象者の変化に合わせて計画が変更できる。</li> </ol>
3. 人間関係を成立するための行動ができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。</li> </ol>
4. 成人期における経過別看護が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施した看護をとおして、成人期における経過別看護について述べるができる。</li> </ol>

実習名 成人看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期の看護）

時期	3年 後期
単位(時間)	2単位（90時間）

目的：慢性期・終末期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者のアセスメントができる。	1. 病態および治療とその影響について述べるができる。 2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題に影響する因子について述べるができる。 3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を明確にすることができる。
2. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、計画に基づいて実施できる。	1. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、実施前に対象者の状況を確認し、必要時は援助の変更ができる。 2. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 3. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、対象者の反応を確認しながら実施できる。 4. 実施した看護を報告できる。 5. 日々の看護を評価するための事実を簡潔に述べるができる。 6. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、看護の評価ができる。 7. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、対象者の変化に合わせて計画が変更できる。
3. 人間関係を成立するための行動ができる。	1. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。
4. 成人期における経過別看護が理解できる。	1. 実施した看護をとおして、成人期における経過別看護について述べるができる。

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学概論Ⅰ (老年期、加齢の概念)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		高齢者の特徴とその生活を理解し、高齢者看護の基本を理解する。			
授業のキーワード		老年期 高齢者 加齢と老化 生活 フレイル 高齢者の健康 高齢者と家族 介護家族 高齢者と社会			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 老年期を生きる人々の特徴が理解できる。	(1) 老年期の理解	①老年期の定義 ②加齢と老化 ③統計から的高齢者 ④生活の変化 ⑤老年期の発達と成熟の意味	講義	
		(2) 加齢に伴う変化	①身体的機能の変化 〈高齢者擬似体験〉 ②心理・精神的機能の変化 ③社会的機能の変化 ④フレイル ⑤疾病をめぐる特徴	講義 演習	
	2. 高齢者を取りまく社会について理解できる。	(1) 高齢化を取り巻く社会環境	①高齢化の国際的動向 ②わが国の高齢化の特徴	講義	
		(2) 高齢者と家族の支援	①介護家族の生活 ②家族エンパワメントの視点 ③介護家族の課題	講義	
	3. 高齢者看護の基本的な考え方が理解できる。	(1) 高齢者看護の基本	①高齢者のQOL ②高齢者看護活動の特性 ③高齢者看護の原則 ④高齢者看護に適用する理論・概念	講義	
		(2) 高齢者看護の倫理	①高齢者の権利擁護 ②高齢者の虐待	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学概論Ⅱ (高齢者と社会)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	
授業の目的及びねらい					
1. 社会における高齢者施策の現状と課題を理解する。 2. 認知症のある高齢者の理解を深める。					
授業のキーワード					
高齢者施策 権利擁護 介護保険 認知症 超高齢社会 地域包括ケアシステム					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 高齢者施策の現状が理解できる。	(1) 高齢者施策	①高齢者の保健・医療・福祉施策の変遷 ②高齢者施策の基本的な考え方 ・高齢社会対策基本法 ③健康づくりの総合的推進 ④地域包括ケアシステム ⑤介護保険 ⑥高齢者医療制度	講義	
	2. 高齢者施策の課題が理解できる。	(1) 高齢者施策の課題	①高齢者の要介護者数の増加 ②認知症のある高齢者の増加 ③介護サービスや支援サービスの提供 ④超高齢社会に対応するための施策	講義	
	3. 認知症のある高齢者について理解できる。	(1) 認知症のある高齢者	①認知症のある高齢者の理解 ・認知症の定義 ・認知症の基本構造 ・認知症の診断・治療・予防	講義	
		(2) 認知症に対する施策	①認知症のある高齢者へのケアシステム ・認知症予防教室 ・グループホームの整備 ・相談事業 ②認知症のある高齢者の人権と権利擁護 ・権利擁護事業	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 「福祉小六法」 中央法規			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学援助論Ⅰ (日常生活援助と終末期看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 高齢者の生活に影響を与える障害を理解する。 2. 高齢者に対する援助を理解する。					
授業のキーワード					
高齢者の機能評価 高齢者の日常生活援助 終末期にある高齢者 廃用症候群					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 高齢者の健康を支える看護が理解できる。	(1) 高齢者の包括的機能評価	①日常生活動作の評価 (ADL) ・カツインデックス ・バーセルインデックス ②手段的日常生活動作の評価 (IADL) ・老研式活動能力指標 ③高齢者総合機能評価「CGA」	講義	
	2. 高齢者の日常生活を整える看護が理解できる。	(2) 高齢者の健康と看護	①健康生活の維持と快適に過ごすための援助	講義	
		(1) 加齢に伴う主要な機能障害の看護	①摂食障害、嚥下障害 ②脱水 ③排尿障害 ④排便障害 《おむつ交換・摘便》 ⑤睡眠障害 ⑥視覚障害 ⑦聴覚障害 ⑧コミュニケーション障害	演習 講義	
		(2) 廃用症候群の アセスメントと看護	①廃用症候群の定義 ②廃用症候群の原因とおもな症状 ③廃用症候群の予防策	講義	
		(3) 転倒のアセスメントと 看護	①転倒が及ぼす影響 ②転倒の原因 ③転倒の予防策	講義	
	3. 高齢者の終末期の看護が理解できる。	(1) 高齢者の終末期の看護	①高齢者の終末期の特徴 ・エンドオブライフ ②苦痛の緩和 ③死への受容への援助 ・アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル ④高齢者の人格の尊重 ⑤家族への援助 ・グリーフケア	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	高齢者看護学援助論Ⅱ (治療処置別・症状別看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 治療処置を受ける高齢者に対する看護を理解する。 2. 認知症のある高齢者に対する援助を理解する。					
授業のキーワード					
高齢者の入院 高齢者と薬物療法 高齢者と検査 高齢者と手術療法 せん妄 認知症看護					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 検査、治療を受ける高齢者の看護が理解できる。	(1) 検査、治療を受ける高齢者の看護	①薬物療法 ②検査 ③手術療法		講義
		(2) 手術療法を受ける高齢者の事例展開	①大腿骨頸部骨折で手術療法を受ける後期高齢者の事例展開		講義
	2. 認知症のある高齢者の看護が理解できる。	(1) 認知症高齢者の看護	①認知症が高齢者の生活に与える影響 ②認知症高齢者とのコミュニケーション ③認知症高齢者の日常生活自立支援 ④認知症高齢者の心身の活性化 ⑤認知症の精神症状・行動障害への対応 ⑥認知症高齢者の安全を守るための援助 ・安全面、健康管理、事故予防 ⑦認知症高齢者を取り巻く環境と環境調整 ⑧認知症高齢者の家族への支援		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「系統看護学講座 臨床外科看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 運動器」 医学書院 「高齢者と成人の周手術期看護 2」 医歯薬出版株式会社 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

実習名 高齢者看護学実習 I (高齢者の理解)

時期	2年 前期
単位(時間)	1単位 (45時間)

目的：高齢者の特徴を理解し、看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

目標	行動目標
1. 施設における高齢者の生活を理解できる。	1. 対象の加齢に伴う変化と健康状態を述べることができる。 2. 対象が受けている援助について述べるができる。 3. 対象の生活について述べるができる。
2. 施設における高齢者の看護を理解できる。	1. 施設における看護師の役割を述べるができる。 2. 施設における看護師と多職種との連携について述べるができる。
3. 高齢者施設の役割を理解できる。	1. 施設の位置づけを述べるができる。 2. 職員の構成と役割を述べるができる。 3. 施設における利用者の概要を述べるができる。
4. 人間関係を成立させるための行動がとれる。	1. 高齢者の特徴をふまえ、対象を尊重した行動をとることができる。
5. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを深めることができる。	1. 実習施設で学んだ高齢者の生活や援助を振り返り、高齢者の特徴をふまえた看護について考えることができる。 2. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを共有することができる。

実習名 高齢者看護学実習Ⅱ（高齢者の特徴をふまえた看護）

時期	2年 後期
単位(時間)	3単位(135時間)

目的：疾病や障害をもちながら療養生活をおくる高齢者を理解し、看護を實踐できる能力を養う。

目 標	行動目標
1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえたアセスメントができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、看護プロフィールを述べることができる。</li> <li>2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、各機能的健康パターンに必要な情報を述べるができる。</li> <li>3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・看護援助（ケア）の分析・統合ができる。</li> <li>4. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、共同問題を分析することができる。</li> <li>5. 分析をふまえ、問題を明確にできる。</li> <li>6. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べるができる。</li> </ol>
2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画が立案できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、目標を述べるができる。</li> <li>2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、具体策を述べるができる。</li> </ol>
3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画（援助の方法）に基づいて実施ができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、実施前に対象者の状況を確認できる。</li> <li>2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、実施時に対象者と家族に適切な説明ができ、同意を得ることができる。</li> <li>3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画（援助の方法）に基づいて実施できる。</li> <li>4. 実施した看護を報告できる。</li> <li>5. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、日々の看護を評価できる。</li> </ol>
4. 人間関係を成立させるための行動ができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者を尊重した行動をとることができる。</li> <li>2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。</li> </ol>
5. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを共有することができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習で行った看護を振り返り、高齢者の特徴をふまえた看護について意味づけすることができる。</li> <li>2. 各グループの発表を聞き、高齢者の特徴をふまえた看護について考えることができる。</li> </ol>



分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学概論Ⅰ (小児看護の役割)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		小児とその家族の健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		子ども 家族 子どもの権利			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもとその家族を取り巻く社会の状況を理解できる。	(1) 子どもと家族の理解	①子どもの概念 ②ライフサイクルからみた小児期 ③子どもと家族	講義	
		(2) 子どもを取り巻く社会状況	①人口動態からみた統計の変化 ②子ども観の変遷 ③子どもと家族を支える法律と社会制度 ・母子保健と子育て支援 ・学校保健 ・予防接種 ・難病・障害児保健福祉	講義	
	2. 小児看護の役割を理解できる。	(1) 小児看護とは	①小児看護の対象 ②小児看護の場 ③小児看護の目標 ④小児看護の役割	講義	
		(2) 小児看護の変遷	①小児医療の変遷 ②小児看護の変遷 ③小児看護の課題	講義	
	3. 子どもの権利と看護を理解できる。	(1) 小児看護における権利	①子どもの人権 ②子どもの虐待 ③子どもの権利に関する法律・施策	講義	
		(2) 小児看護における倫理	①小児看護における倫理的問題 ②小児看護と倫理的配慮	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学概論Ⅱ (小児の成長と発達)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		子どもの成長・発達を理解し、健康増進のための子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		成長・発達 発達段階 発達課題 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 親子関係論			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもの成長・発達について理解できる。	(1) 子どもの成長・発達とは	①成長・発達の原則 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価	講義	
		(2) 小児看護に必要な理論	①セルフケア理論 ②エリクソンの自我発達理論 ③ピアジェの認知発達理論 ④親子関係論 ⑤家族理論	講義	
	2. 子どもの発達段階の特徴と健康増進のための看護を理解できる。	(1) 新生児・乳児の特徴と健康増進のための看護	①新生児・乳児期の成長・発達 ②乳児の栄養 ③運動と遊び	講義	
		(2) 幼児の特徴と健康増進のための看護	①幼児期の成長・発達 ②基本的な生活習慣の獲得 ③幼児の養育および看護 ④安全対策 (事故防止)	講義	
		(3) 学童の特徴と健康増進のための看護	①学童期の成長・発達 ②栄養と食生活 ③学習と遊び	講義	
		(4) 思春期の子どもの特徴と健康増進のための看護	①思春期の成長・発達 ②心理・社会的適応に関する問題 栄養と食生活 ③健康問題行動と家族機能	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学援助論Ⅰ (疾患の理解と症状別看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 健康障害のある子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。 2. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する。					
授業のキーワード					
子どもの疾病・障害 外来受診 入院 在宅療養					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病・障害のある子どもと家族への看護が理解できる。	(1) 疾病・障害が子どもと家族に与える影響  (2) 子どもの健康問題と看護  (3) 健康問題のある子どもの家族の看護	① 疾病・障害に対する子どもの反応 ② 疾病・障害のある子どもと家族の反応  ① 症状の改善と苦痛の緩和 ② 治療における意思決定の支援 ③ 発達段階に即したセルフケアの支援 ④ 子どもの日常生活にかかわる援助  ① 親・きょうだいへの支援 ② 家族関係の調整と社会資源の活用	講義  講義  講義	
	2. 主要症状を示す子どもと家族の看護が理解できる。	(1) 主要症状を示す子どもと家族の看護	① 不機嫌 ② 啼泣 ③ 痛み ④ 発熱 ⑤ 嘔吐 ⑥ 下痢 ⑦ 脱水 ⑧ けいれん ⑨ 発疹	講義	
	3. さまざまな場や状況にある子どもと家族への看護が理解できる。	(1) 入院中の子どもと家族の看護  (2) 外来における子どもと家族の看護  (3) 生活制限のある子どもと家族の看護  (4) 在宅療養中の子どもと家族の看護  (5) 災害を受けた子どもと家族の看護	① 入院環境と家族 ② 子どもの入院が家族に及ぼす影響と家族の反応  ① 外来を受診する子どもと家族の特徴 ② 外来を受診する子どもと家族の看護 ・ 小児外来の環境 ・ 外来看護の役割  ① 活動制限のある子どもと家族 ② 隔離中の子どもと家族 ③ 食事制限のある子どもと家族  ① 在宅療養中の子どもと家族の特徴 ② 在宅療養中の子どもと家族の看護  ① 災害を受けた子どもの心と身体への影響 ② 災害時の子どもと家族への看護	講義  講義  講義  講義  講義	

4. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療について理解できる。	(1) 新生児・低出生体重児の疾患	①呼吸窮迫症候群 ②新生児仮死 ③高ビリルビン血症	講義
	(2) 染色体異常	①ダウン症候群 ②ターナー症候群 ③脆弱X症候群	講義
	(3) 感染症	①麻疹 ②風疹 ③水痘 ④百日咳 ⑤インフルエンザ ⑥伝染性単核球症 ⑦手足口病	講義
	(4) 消化器疾患	①腸重積 ②幽門狭窄症 ③急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎	講義
	(5) 循環器疾患	①川崎病 ②先天性心疾患	講義
	(6) 呼吸器疾患	①肺炎 ②気管支炎 ③クループ症候群 ④マイコプラズマ肺炎	講義
	(7) 神経疾患	①てんかん ②熱性けいれん ③脳性麻痺 ④筋ジストロフィー	講義
	(8) アレルギー疾患	①アトピー性皮膚炎②気管支喘息 ③アレルギー性紫斑病	講義
	(9) 腎疾患	①ネフローゼ症候群 ②糸球体腎炎	講義
	(10) 代謝、内分泌疾患	①低身長 ②フェニルケトン尿症 ③甲状腺機能低下症 ④I型糖尿病	講義
	(11) 血液・リンパ系疾患	①血友病 ②鉄欠乏性貧血	講義
	(12) 悪性新生物	①白血病 ②ウイルス腫瘍 ③神経芽腫	講義
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護」 メディカ出版		
成績評価の方法	筆記試験 100%		



テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」 メディカ出版 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院
成績評価の方法	筆記試験 100%

実習名 小児看護学実習

時 期	3年
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：子どもとその家族を理解し、小児看護を実践する能力を養う。

小児看護学実習1 (特別支援学校実習)

学習活動	学習活動における評価規準
1. 地域で生活する障害のある子ども・家族の特徴と、支援を理解する。	1) 障害のある子どもと家族への関わりと支援について学んでいる。

小児看護学実習2 (病院実習)

学習活動	学習活動における評価規準
1. 日々の関わりを通して子ども・家族を多面的にとらえ、理解を深める。	1) 「健康障害」「成長・発達」「子どもと家族の思い」の視点から子どもと家族をとらえ、日々の関わりを通して、その理解を深めている。
2. 子ども・家族にとっての最善の看護について考え、実践する。	1) 子どもと家族の状況に合わせ、成長・発達を促したり、治療意欲が高まったりするよう、工夫して関わっている。 2) 自己の実践を振り返って分析・意味づけし、よりよい実践を追求している。 3) 看護チームの一員として、情報を共有している。
3. 見学・体験・実践を通し、小児看護についての理解を深める。	1) 見学・体験・実践した事柄を意味づけし、小児看護の役割について理解を深めている。

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	母性看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		母性看護の概念、及び、対象を取り巻く社会の変遷・動向について学習し、母性看護の基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		母性 性 リプロダクティブヘルス /ライツ ヘルスプロモーション 母子保健 生命倫理			
時間	目 標	主 題	内 容	指 導 方 法	
	1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。	(1) 母性とは	①母性とは・父性とは・親とは ②母性看護の対象	講義	
		(2) セクシュアリティ	①性とは ②人間の性の特徴 ③セックスとジェンダー	講義	
		(3) リプロダクティブヘルス /ライツ	①リプロダクティブヘルス /ライツとは ②リプロダクティブヘルス /ライツの課題 ③ヘルスプロモーションとは ④女性の生涯にわたる健康教育	講義	
		(4) 母性看護のあり方	①母性看護とは ②母性看護の役割 ③母性看護の場と職種	講義	
		(5) 母性看護における倫理	①生命倫理と看護倫理 ②看護における倫理的意志決定	講義	
		(6) 母性看護における安全	①母性看護の現場における事故 ②母性看護・医療事故の予防	講義	
	2. 母性看護の歴史の変遷と母性看護の対象を取り巻く社会の現状について理解する。	(1) 母性看護の変遷と社会の現状	①母性看護の変遷 ②母子保健統計からみた動向 ③母性看護に関する組織と法律 ④母子保健施策からみた現状	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				



分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	母性看護学援助論Ⅰ (母性のライフサイクルと看護)	担 当 講 師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		1. ライフサイクル各期の看護について理解する。 2. 女性特有の健康問題と看護について理解する。 3. 母性の健康をめぐる課題と看護について理解する。			
授業のキーワード		ライフサイクル 母性 性機能 性教育 家族計画 不妊 更年期障害 女性生殖器疾患 健康課題			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康の保持・増進、疾病の予防、健康問題に対する看護について理解する。	(1) ライフサイクル  (2) 思春期の健康と看護  (3) 成熟期の健康と看護  (4) 更年期の健康と看護  (5) 老年期の健康と看護	① ライフサイクルと健康 ② 現代女性のライフサイクルの変化 ① 性の発達 生殖器の形態、性機能 ② 思春期の特徴と健康教育 第二性徴 月経 栄養 性教育 ③ 思春期の健康問題と看護 摂食障害 貧血 月経異常 ④ 性がもたらす問題の多様性 人工妊娠中絶 性感染症 ① 成熟期の特徴と健康教育 婚姻と就労 家族計画 子育て ② 成熟期の健康問題と看護 不妊 周産期の死 ① 更年期の特徴と健康教育 ② 更年期におこりやすい健康問題と看護 ③ 更年期障害 ① 老年期の特徴 ② 老年期におこりやすい健康問題と看護	講義  講義  講義  講義  講義	
	2. 母性機能に影響を与える健康問題の看護について理解する。	(1) 女性生殖器疾患をもつ対象の看護	① 診察時の看護 ② 症状とその病態に対する看護 ③ 子宮疾患・卵巣疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護 ④ 乳房疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護	講義	
	3. 現代社会における母性の健康をめぐる課題について理解する。	(1) 母性の健康をめぐる課題	① 母性看護の対象を取り巻く環境 ② 国際化社会と母性看護 ③ 育児不安と虐待 ④ 性暴力	講義	
テキスト ・参考文献		「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	母性看護学援助論Ⅱ (妊娠期、分娩期の看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
(妊娠期) 1. 妊娠期の生理的変化や、経過および看護について理解する。 2. 妊娠期の主な異常について学習し、予防と対処方法について理解する。 (分娩期) 3. 分娩期の生理的変化や、経過および看護について理解する。 4. 分娩期の主な異常について学習し、母子に及ぼす影響について理解する。					
授業のキーワード					
妊娠 胎児 分娩 生理的変化 ハイリスク妊娠 異常妊娠 異常分娩 早期母子接触 愛着形成					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる妊婦の看護が理解できる。	(1) 妊娠の生理  (2) 妊婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	①妊娠の成立 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的変化 ①妊娠の受容と看護 胎児との愛着形成 ②妊婦の健康診査 <腹囲、子宮底測定> ③妊婦と家族の看護 保健指導・妊娠の届け出 母乳栄養の利点 胎児心拍モニタリング ④分娩の計画と準備 分娩前教育 バースプラン ⑤事例を用いた妊娠期のアセスメント	講義  講義  演習	
	2. 妊娠期にみられる異常と妊婦の看護が理解できる。	(1) ハイリスク妊婦・異常妊娠と看護	①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 妊娠糖尿病 妊娠高血圧症候群・血液型不適合妊娠 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常 ⑥ハイリスク妊婦の看護	講義	
	3. 正常な経過をたどる産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	①分娩の要素 ②分娩の経過 <胎児付属物の観察> ③産婦と家族の看護 早期母子接触 バースレビュー ④事例を用いた分娩期のアセスメント	講義  演習	
	4. 分娩期にみられる異常と産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の異常と看護	①分娩にみられる異常 産道の異常・陣痛の異常・胎児付属物の異常(羊水混濁・MASを含む) 分娩時異常出血・産科処置と産科手術 ②異常分娩時の産婦の看護	講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	母性看護学援助論Ⅲ (産褥期、新生児期の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的及びねらい		<p>(産褥期) 1. 産褥期の生理的変化及び、母子、家族への看護について理解する。 2. 産褥期の主な異常について学習し、予防と対処方法について理解する。 (新生児期) 3. 新生児期の機能と生理的変化について理解する。 4. 子宮外生活への適応を促進する看護の基礎的能力を養う。</p>			
授業のキーワード		産褥 退行性変化 進行性変化 役割獲得 新生児 愛着・母子相互作用 子宮外適応現象 生理的変化 産後うつ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる褥婦の看護が理解できる。	(1)産褥の身体的、心理・社会的変化 (2)褥婦と家族の看護	①退行性変化 ②進行性変化 ③褥婦・家族の心理的変化 ①身体機能回復への看護 活動・休息 栄養 排泄 子宮底の高さと硬さの観察 ②母乳栄養確立への看護 栄養 授乳 搾乳 乳房・乳頭の観察 ③役割獲得への看護 愛着・母子相互作用 育児技術 退院指導	講義 講義	
	2. 産褥期にみられる異常と看護が理解できる。	(1)産褥の異常と褥婦の看護	①子宮復古不全 ②産褥感染症 ③産褥血栓症 ④マタニティブルーズ ⑤産後うつ ⑥産褥期の異常と看護	講義	
	3. 正常な経過をたどる新生児の看護が理解できる。	(1)新生児の機能と生理的変化 (2)出生直後の看護 (3)新生児期の生理的変化と看護	①新生児の機能 ②生理的変化 生理的体重減少・生理的黄疸 ①出生直後の観察・測定 ②出生直後のアセスメント ①子宮外生活への適応状態 日々の観察とアセスメント ②子宮外生活適応への看護 保育環境 沐浴・感染予防 栄養 《全身の観察・バイタルサインの測定、更衣・沐浴・臍処置、移動・移送》 <調乳> <身体測定> ③新生児期におこりやすい医療事故 取り違え防止	講義 講義 講義 演習 講義	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

実習名 母性看護学実習

時期	3年
単位(時間)	2単位(90時間)

目的：周産期の対象を通し、看護が実践できる基礎的能力を養う。

目標	行動目標
1. 妊娠期・産褥期にある対象者のアセスメントができる。	1. 妊娠・分娩・産褥経過を判断するための事実を述べることができる。 2. 妊娠・分娩・産褥経過が順調であったのか、問題があったのかを述べる ことができる。 3. 産褥経過に妊娠・分娩の経過が及ぼす影響について述べる ことができる。
2. 妊娠期・産褥期にある対象者の看護が実施できる。	1. 妊婦・褥婦に対して、計画にそった実施ができる。 2. 妊婦・褥婦に実施した看護を報告することができる。 3. 妊婦・褥婦に実施した看護を評価することができる。
3. 胎児期・新生児期にある対象者の看護が実施できる。	1. 胎児の経過及び出生時の状態を判断するための事実を述べる ことができる。 2. 胎児の経過および出生時の状態が順調であったのか、問題があった のかを述べる ことができる。 3. 子宮外生活適応に、胎児の経過および出生時の状態が及ぼす影響 について 述べる ことができる。 4. 胎児・新生児に対して、計画にそった実施ができる。 5. 胎児・新生児に実施した看護を報告することができる。 6. 胎児・新生児の状態と実施した看護を評価することができる。
4. 周産期にある対象の看護を通して、母性看護について述べる ことができる。	1. 見学・実施した看護を通して、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期・新生 児期の看護について自らの考えを述べる ことができる。 2. 見学・実施した看護を通して、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期・新生 児期における母性看護の特徴について述べる ことができる。 3. 臨地実習で行った看護を振り返り、母性看護の学びを共有する ことができる。

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学概論Ⅰ (精神看護の基本概念と精神の健康支援)	担当講師	
開始年次	1年後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 精神看護の基本概念、基本理論と健康支援を理解する。					
授業のキーワード					
精神の健康 パーソナリティの発達 ストレス 危機 精神の健康問題 健康支援					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神看護の考え方と精神看護に必要な基礎理論を理解できる。	(1) 精神看護の基本概念	①精神の健康とは ②精神障害のとらえ方 ③精神看護の対象 ④精神看護の役割 ・リエゾン看護	講義	
		(2) 精神の構造・機能とパーソナリティの発達	①フロイトの3層の人格構造 ②防衛機制 ③パーソナリティの発達理論 ・フロイトの性的発達理論 ・エリクソンの漸成的発達理論	講義	
	2. 現代社会における精神の健康問題、健康支援について理解できる。	(3) ストレスと危機	①ストレス ・ストレスとは ・ストレス反応の現れ方 ・ストレスへの対処 (コーピング) ②危機(クライシス) ・危機とは ・危機介入とは ・危機介入の理論的背景 ・危機介入の方法	講義	
		(1) ライフサイクルにおける危機	①乳幼児期における危機 ②学童期における危機 ③思春期・青年期における危機 ④壮年期・中年期における危機 ⑤老年期における危機	講義	
		(2) 精神の健康問題と健康支援	①精神の健康問題 ・自殺 ・ひきこもり ・不登校 ・自傷行為 ・薬物乱用 ・依存症 ・災害被害 ・犯罪被害 ・過労死 ・虐待・DV ②精神の健康支援	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学概論Ⅱ (精神保健福祉活動の動向)	担当講師	
開始年次	2年前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		1. 精神医療・看護の現状と精神保健医療福祉施策および倫理的課題について理解する。 2. 精神に障害のある対象の地域生活を支える精神保健医療福祉施策を理解する。			
授業のキーワード		精神保健医療福祉活動の変遷 精神保健福祉法 心神喪失者等医療監察法 障害者総合支援法 地域精神保健医療福祉活動			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神保健医療福祉と法制度について理解できる。	(1) 精神保健医療福祉の変遷	①精神病概念の変遷 ②精神病者の処遇の歴史 ③現行法にいたるまでの法律の変遷 ④社会的偏見と差別 ・社会的烙印 (スティグマ)	講義	
		(2) 精神保健医療福祉の法制度	①精神保健福祉法 ②心神喪失者等医療観察法 ③障害者総合支援法	講義	
		(3) 精神保健医療福祉施策の動向	①我が国における精神保健医療福祉施策の現状 ②今後の課題	講義	
		(4) 精神保健医療福祉領域における倫理的課題	①看護の倫理とアドボカシー ②インフォームドコンセント ③精神に障害のある対象の権利擁護と自己決定支援	講義	
	2. 精神保健医療福祉活動とリハビリテーションについて理解できる。	(1) 精神科におけるリハビリテーションの考え方	①全人的リハビリテーション ②国際生活機能分類 (ICF) の考え方	講義	
		(2) 地域精神保健医療福祉活動における社会資源の活用	①治療を継続するための場 ・病院、診療所 ・デイケア、ナイトケア ・訪問看護 ②障害者総合支援法におけるサービス ③雇用および就労支援 ④家族や当事者によるサポート ・ピアサポート ⑤精神科チームによる連携 ⑥在宅医療との連携	講義	
テキスト・参考文献	「ナースング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナースング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の理解と精神看護の特徴)	担当講師	
開始年次	2年前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的及びねらい					
精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
精神疾患		精神症状	精神科治療	治療的関わり	リスクマネジメント
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神症状のとりえ方と 主な疾患、検査、治療 について理解できる。	(1) 精神医学の基礎的知識	①精神医学を学ぶ理由 ②精神医学の対象	講義	
		(2) 精神症状と状態像の とりえ方	①感情の障害 ②知覚の障害 ③思考の障害 ④意欲の障害 ⑤記憶の障害 ⑥知能の障害 ⑦意識の障害 ⑧自我意識の障害	講義	
		(3) 主な精神疾患の理解	①精神疾患の分類 ・国際疾病分類（ICD分類法） ・DSM分類法 ②神経発達症 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ③統合失調症 ④抑うつ障害と双極性障害 ⑤不安障害（パニック障害） ⑥強迫性障害 ⑦ストレス因関連障害（PTSD） ⑧解離性障害 ⑨身体症状症および関連症 ⑩摂食障害 ⑪物質関連障害（アルコール、薬物） ⑫パーソナリティ障害	講義	
		(4) 医学的検査と心理検査	①医学的検査 ・脳検査 ②心理検査 ・知能検査 ・性格検査	講義	
		(5) 主な精神科治療	①薬物療法 ②精神療法（CBT） ③社会療法（作業療法、SST） ④電気けいれん療法	講義	

	<p>2. 精神に障害のある対象への看護の特徴と基本的援助を理解する。</p>	<p>(1) 精神に障害のある対象の理解</p> <p>(2) 精神科看護におけるケアの方法</p> <p>(3) 環境の治療的意義とその活用</p> <p>(4) リスクマネジメント</p>	<p>①精神に障害のある対象及び家族の特性</p> <p>①治療的関わりの考え方 ・看護師に求められるコミュニケーション技術</p> <p>②日常生活行動の援助 ・入院患者の日常生活 ・治療としての生活援助 ・社会学習への援助</p> <p>③服薬治療にかかわる援助</p> <p>①病院・病棟の環境 ②環境の治療的意義 ③環境の治療的活用</p> <p>①自殺 ②暴力行為 ・包括的暴力防止プログラム (CVPPP) ③無断齧院 ④誤嚥・窒息 ⑤転倒・転落</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」メディカ出版</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験100%</p>			



分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	精神看護学援助論Ⅱ (疾病の経過に応じた看護)	担 当 講 師	
開始 年次	2年後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		精神に障害のある対象と家族に対して健康回復に向けた看護援助が理解する。			
授業のキーワード		経過別 安全確保 睡眠と休息の確保 現実感の獲得 セルフケア 退院支援			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神に障害のある対象の疾病の経過と症状、治療をふまえた看護について理解できる。	(1) 急性期～回復期にある対象の看護	①本人および医療者の安全確保 ・行動制限 ・隔離、拘束 ②身体状態のアセスメント ③家族への援助 ④睡眠と休息の確保 ⑤現実感の獲得 ⑥治療への合意形成 ⑦再発予防のための心理教育	講義	
		(2) 慢性期にある対象の看護	①セルフケアの援助 ②社会復帰に向けての支援 ③長期入院患者の退院支援 ④地域における支援システムの活用 ⑤訪問・外来での看護の役割	講義	
		(3) 様々な精神症状を呈する対象の看護	①幻覚・妄想 ②意欲低下 ③不安 ④強迫 ⑤希死念慮 ⑥躁、抑うつ ⑦依存 ⑧攻撃 ⑨操作等	講義	
		(4) 様々な治療を受ける対象の看護	①薬物療法 ②精神療法 (C B T) ③社会療法 (作業療法、S S T) ④電気けいれん療法 ⑤その他の療法	講義	
	2. 主な精神疾患をもつ対象の看護について理解できる。	(1) 主な精神疾患の看護	①神経発達症の看護 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ②統合失調症の看護 ③抑うつ障害と双極性障害の看護 ④不安障害 (パニック障害) の看護 ⑤強迫性障害の看護 ⑥ストレス因関連障害 (P T S D) の看護	講義	

		(2)慢性期にある精神に障害のある対象の事例展開	⑦解離性障害の看護 ⑧身体症状症および関連症の看護 ⑨摂食障害の看護 ⑩物質関連障害（アルコール、薬物）の看護 ・セルフヘルプグループ（AA）の活動 ⑪パーソナリティ障害の看護 ①統合失調症で壮年期にある対象の事例展開 ②プロセスレコードの考察	特別講義  講義 演習
テキスト・参考文献	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」メディカ出版 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

## 実習名 精神看護学実習

時 期	3年
単位 (時間)	2単位 (90時間)

### 精神看護学実習1(病院実習)

目的：精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を实践できる能力を養う。

目 標	行動目標
1. 精神に障害のある対象の療養環境を理解することができる。	1. 入院環境の治療的意義を述べるができる。 2. リスクマネジメントの実際について述べるができる。
2. 精神に障害のある対象者を理解することができる。	1. 健康障害を考慮して看護プロフィールを述べるができる。 2. 健康障害をふまえ、対象者の情報を収集し分析することができる。 3. 健康障害が対象者の生活に与える問題を明確にできる。
3. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえた看護を実施できる。	1. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえた計画立案ができる。 2. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえ、目標の達成に向けて実施できる。 3. 実施した看護を報告できる。 4. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえ、日々の看護を評価できる。
4. 治療環境としての自己を活用することができる。	1. 対象者の言動の意味・原因について述べるができる。 2. 自己の言動が対象者に及ぼす影響について述べるができる。 3. 対象者と自己の相互作用を考察し、関わりを振りかえることができる。 4. 対象者と自己の相互作用における考察を日々の関わりにかすことができる。
5. 対象者—看護者関係の発展について理解できる。	1. 実施した看護を通して、対象者—看護者関係の発展について考察することができる。

### 精神看護学実習2(社会復帰施設実習)

目的：社会復帰施設での活動を通して、精神の障害のある対象が地域で生活するための支援について学ぶ。

目 標	行動目標
1. 精神に障害のある対象が地域で生活するための支援について理解できる。	1. 施設に通所している利用者と家族の実際について述べるができる。 2. 社会復帰施設の役割を述べるができる。 3. 社会復帰支援に対する自己の考えを述べるができる。

## 5. 統 合 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
在宅看護論  (臨地実習)	在宅看護概論Ⅰ (在宅看護の概念)	1	15
	在宅看護概論Ⅱ (在宅ケアシステム)	1	15
	在宅看護援助論Ⅰ (日常生活援助・医療処置を伴う援助)	1	30
	在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の援助)	1	30
	在宅看護論実習	2	90
	小 計	6	180
看護の統合と実践  (臨地実習)	総合看護	1	30
	看護医療安全	1	30
	災害看護	1	30
	看護技術評価	1	15
	統合実習	2	90
	小 計	6	195
合 計		12	375

分野	統合分野	授業 科目名	在宅看護概論Ⅰ (在宅看護の概念)	担 当 講 師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		在宅看護の特徴および役割について理解する。			
授業のキーワード		在宅看護 訪問看護 生活者 生活の質 在宅療養者と家族 権利擁護			
時間	目 標	主 題	内 容	指 導 方 法	
	1. 在宅看護の概念を 理解できる。	(1) 在宅看護とは	①日本の在宅看護の変遷と社会的背景 ②在宅看護の目的 ③在宅看護の内容	講義	
		(2) 在宅看護の特性	①在宅で療養しながら生活するとは ②在宅療養を支える人々 ③訪問看護とは ④訪問看護の制度 ⑤訪問看護の役割	講義	
		(3) 在宅看護における 倫理	①療養者と家族の意思決定支援 ②療養者と家族の権利擁護	講義	
	2. 在宅看護の対象を 理解できる。	(1) 在宅療養者の特徴	①年齢からみた特徴 ②疾患からみた特徴 ③障害からみた特徴 ④在宅療養状態別にみた特徴	講義	
		(2) 家族の特徴	①家族の機能と変遷 ②家族を理解するための基礎理論 ・家族システム理論 ・家族対処理論 ・構造—機能理論 ③介護家族の状況	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護概論Ⅱ (在宅ケアシステム)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		1. 在宅ケアシステムの機能を理解し、関係機関・関係職種の役割について学ぶ。 2. ケアマネジメントについて理解する。 3. 訪問看護活動と訪問看護ステーションの役割について理解する。			
授業のキーワード		地域包括ケアシステム 連携・協働 ケアマネジメント 社会資源 訪問看護ステーション			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅ケアとケアマネジメントについて理解できる。	(1)在宅ケアとケアマネジメント	①ケアマネジメントの目的 ②ケアマネジャーの役割 ③ケアマネジメントの記録・情報管理	講義	
	2. 関係機関の機能と関係職種の役割について理解できる。	(1)保健医療福祉機関	①医療施設、介護保険施設、保健機関等の役割 ②関係職種の役割 ③関係職員・機関との連携	講義	
	3. 地域包括ケアシステムと在宅ケアシステムについて理解できる。	(1)在宅ケアに関わる保健医療福祉施策	①介護保険制度における在宅要介護者等へのサービス・施設サービス ②医療保険制度における施設および在宅サービス ③地域包括支援センター	講義	
		(2)在宅ケアシステムの機能	①看護職と他の関係職種との連携と協働 ②病院内の看護の連携 ③施設内看護（臨床看護師）と在宅看護（訪問看護師）間の連携 ④退院調整看護師の役割 ⑤ボランティア、近隣の人々との交流と協働	講義	
		(3)地域の社会資源(在宅ケア関連サービス)の種類とその活用	①在宅福祉サービス、施設福祉サービス ②保健・医療サービス等 ③地域の社会資源の効果的な活用	講義	
	4. 訪問看護活動を理解できる。	(1)地域包括ケアシステムにおける訪問看護活動	①訪問看護師の役割 ②在宅ケアを支える訪問看護ステーションの設置と管理運営 ③訪問看護ステーションの活動の実際 ④訪問看護記録	講義	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護援助論Ⅰ (日常生活援助・医療処置を伴う援助)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		1. 在宅での療養生活に必要な環境の調整と日常生活行動の援助を習得する。 2. 在宅での医療処置の方法や療養者・家族への看護について理解する。			
授業のキーワード		マナー 在宅での日常生活援助 在宅での医療処置			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅療養の場に応じた日常生活援助技術を習得できる。	(1) 訪問看護における看護者に必要な態度  (2) 日常生活の援助	①在宅における援助の特徴 ②家庭訪問の意義と訪問時のマナー 在宅におけるコミュニケーション技術  ①住環境の整備 ②食事の援助 ③排泄の援助 ④清潔・衣生活の援助 《入浴、家庭にある物品を使用した洗髪・陰部洗浄》 ⑤移動の援助 《福祉用具を使用した移動》 ベッド上での体位変換 ベッドと車椅子間の移乗	講義   講義  演習  演習	
	2. 在宅で医療処置を必要とする人の看護を理解できる。	(1) 医療処置を伴う援助	①服薬支援 ②経管栄養法 《経鼻栄養・胃瘻栄養》 ③在宅輸液管理 ④膀胱留置カテーテル管理 ⑤在宅酸素療法（HOT） ⑥在宅人工呼吸療法（HMT） ⑦持続携帯式腹膜灌流（CAPD） ⑧在宅における褥瘡予防と褥瘡ケア ＜褥瘡予防と褥瘡ケア＞ ⑨在宅におけるストーマケア ＜人工肛門＞ 人工膀胱	講義  演習 講義       演習 講義 演習	
テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版 「ビジュアル 臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	統合分野	授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の援助)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. さまざまな状況にある在宅療養者・家族の看護の実際を理解する。 2. 在宅での終末期看護を理解する。					
授業のキーワード					
在宅看護 療養者と家族 価値観 在宅終末期のケア					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅における対象の看護を理解できる。	(1)在宅における療養者と家族の理解	①療養者と家族の生活状況 ②療養者とその家族の生活史・生活習慣・価値観 ③療養者と家族の社会資源の活用 ④療養者と家族の生活に影響を及ぼす因子 ⑤療養者と家族の看護	講義	
		(2)脳血管障害で後遺症をもつ療養者と家族の事例展開	①脳梗塞後遺症のある療養者と介護者の看護	講義 演習	
	2. 在宅で療養する人と家族の状況に応じた看護を理解できる。	(1)在宅における慢性疾患のある療養者と家族の看護	①慢性疾患のある療養者の特徴 ②在宅で生活する慢性疾患の療養者の看護	講義	
		(2)在宅における難病のある療養者と家族の看護	①難病の療養者の特徴 ②在宅で生活するALSの療養者の看護	講義	
		(3)在宅における精神疾患の療養者と家族の看護	①精神疾患の療養者の特徴 ②在宅で生活する統合失調症の療養者の看護	講義	
		(4)在宅における小児と家族の看護	①在宅ケアを必要とする小児の特徴 ②在宅における小児看護	講義	
		(5)在宅におけるリスクマネジメント	①感染の予防とその対応 ②リスクマネジメント ・在宅看護におけるリスク ・事故防止と危機管理	講義	
	3. 在宅における終末期の看護を理解できる。	(1)在宅における終末期療養者の特徴	①終末期にある療養者の特徴	講義	
		(2)終末期プロセスと療養者および家族への支援	①終末期プロセスとケアの特徴 訪問導入期・安定期・不安定期・死亡直前期・死亡後 ②訪問看護師が支える終末期ケア	講義	
テキスト・参考文献		「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			



## 実習名 在宅看護論実習

時 期	3年
単位 (時間)	2単位 (90時間)

### 在宅看護論実習1 (訪問看護ステーション)

目的：在宅療養者とその家族を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目 標	行 動 目 標
1. 在宅療養者とその家族を生活者として捉えることができる。	1. 療養者とその家族の生活の状況を述べるができる。 2. 療養者とその家族の生活史・生活習慣・価値観を述べるができる。 3. 療養者とその家族の生活に影響を及ぼしている因子とその関連を述べるができる。
2. 在宅療養者とその家族の主体性を尊重し、QOLの向上をめざす看護が実施できる。	1. 訪問時の援助計画を立案できる。 2. 療養者とその家族の意向や生活のペースを尊重した実施ができる。 3. 訪問時の基本的な態度をとることができる。
3. 在宅ケアを効果的に行うための保健・医療・福祉の連携と看護職の役割が理解できる。	1. 訪問看護ステーションの概要と役割を述べるができる。 2. 療養者とその家族を支える保健・医療・福祉の連携の実際を述べるができる。 3. 在宅ケアシステムを理解し、その中で看護師の役割を述べるができる。

### 在宅看護論実習2 (地域包括支援センター)

目的：地域包括支援センターの活動の実際を理解し、地域包括ケアについて学ぶ。

目 標	行 動 目 標
1. 地域包括支援センターの概要と役割を理解することができる。	1. 地域包括支援センターの概要を述べるができる。 2. 地域包括支援センターの活動の実際を述べるができる。

分野	統合分野	授業科目名	総合看護	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		1. 看護を取り巻く諸制度や看護管理について理解できる。 2. 看護倫理が理解できる。 3. 看護の国際協力のあり方や看護の動向が理解できる。 4. 看護研究の基礎が理解できる。			
授業のキーワード		看護倫理    看護管理    リーダーシップ    メンバーシップ    国際看護    看護研究			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護管理について理解する。	(1) 看護管理	①看護管理とは ②看護におけるマネジメント ③看護サービスのマネジメント ・看護の質の保障 ・人材のマネジメント ・物品・設備環境のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織のリスクマネジメント ・看護サービスの評価	講義	
		(2) チーム医療	①看護職の責任と役割 ②多職種との連携・協働	講義	
		(3) 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ	①組織とマネジメント ②リーダーシップ ③看護チームでの情報伝達・共有 ④看護師長の役割と業務 ⑤チームリーダーの役割と業務 ⑥チームメンバーの役割	講義	
		(4) 看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア形成と成長	講義	
	2. 生命の尊重及び人権の擁護を踏まえて看護職者の倫理について理解できる。	(1) 看護職に求められる倫理	①患者の権利 ②看護職の職業倫理	講義	
		(2) 生命の尊厳と倫理	①現代の医療・看護をめぐる倫理的 問題		
	3. 看護の動向と課題について理解できる。	(1) 看護の国際協力	①世界の健康問題の現状 ②国際協力の仕組み ③プライマリーヘルスケア ④異文化の理解	講義	
		(2) 日本での看護の課題と活動の方向性	①社会状況の変化と看護 ②看護活動に期待されるもの ③多職種との協働の中で看護の果たす役割	講義	

4. 看護研究の基礎が理解できる。	(1) 看護における研究の意味	①研究とは ②看護研究とは ③研究過程の外観	講義
	(2) 看護研究における倫理	①研究における倫理の必要性 ②研究と基本的人権 ③倫理上の原則 ④研究計画審査機構の設置	講義
	(3) 文献検討 (検索)	①文献検討 (検索) の意義 ②文献検索の資料と活用の仕方 ③文献の読み方 ④文献整理の方法	講義
	(4) 研究デザイン	①研究過程における研究デザインの位置づけ ②研究デザインの種類	講義
	(5) 論文のまとめ方	①研究計画書作成の目的と概要 ②研究計画書の作成 ③論文の作成 ④学会発表の意義	講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 看護研究」 医学書院 「系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕看護管理」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	統合分野	授業科目名	看護医療安全	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		1. 医療事故の問題について学び、リスクマネジメントの基礎を理解する。 2. 医療事故防止の方法を理解する。			
授業のキーワード		医療事故 看護事故 リスクマネジメント ヒューマンエラー 事故の防止と方法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療の現場におけるリスクマネジメントの基礎が理解できる。	(1) 医療安全を学ぶことの意味 (2) 医療事故防止の考え方と防止のためのシステム	①人間の特性とヒューマンエラー ②事故発生のメカニズム ①医療事故と看護業務 a) 看護業務から見る医療事故 b) 看護事故の構造 c) 看護事故防止の考え方 ②リスクマネジメントの考え方 ③医療事故の分析 a) インシデントレポートと分析 b) 事故分析の方法 ④組織としての医療安全対策 KYT (危険予知トレーニング) ⑤国内外の医療安全対策	講義 講義	
	2. 看護事故を自分自身に起こりうる身近な問題として捉え、その防止の方法について理解できる。	(1) 診療の補助業務に伴う事故防止  (2) 療養上の世話における事故防止  (3) 共通する間違いと事故の発生要因  (4) 医療安全とコミュニケーション  (5) 医療従事者の安全と事故防止  (6) 事故防止の実際	①注射業務と事故防止 ②注射業務で用いる機器での事故防止 ③輸血業務と事故防止 ④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養注入と事故防止 ⑥チューブ管理と事故防止 ①転倒・転落事故防止 ②誤嚥事故防止 ③異食事故防止 ④入浴中の事故防止 ①患者間違い ②タイムプレッシャーと途中中断 ③思い込み ①事故防止のためのコミュニケーション ①感染 ②放射線被爆 ③医薬品の曝露 ④暴力 《看護事故体験》	演習 講義 講義 講義 演習	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕医療安全」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	統合分野	授業科目名	災害看護	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害時における看護の役割・機能を学ぶ。 2. 災害時の看護が実践できる能力を養う。					
授業のキーワード					
災害サイクル 災害種類別の疾患の特徴 トリアージ 心のケア					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 災害および支援体制について理解できる。	(1) 災害とは	①災害・災害看護の定義 ②災害と災害看護の歴史 ③災害の種類と被害の特徴 ④災害サイクル ⑤災害がおよぼす影響	講義	
		(2) 災害発生時の社会の対応・しくみ	①災害に関連する国の政策、法律、制度 ②災害時の組織体制 ③災害時の情報収集と伝達 ④災害時の連携と協働、感染症対策 ⑤わが県の支援体制	講義	
	2. 災害時における看護の役割と機能について理解できる。	(1) 災害時の看護の役割と看護活動	①配慮を必要とする人への支援 ②被災者と支援者の心理の理解と援助 ③災害サイクルに準じた看護活動 静穏期・準備期、超急性期、急性期、亜急性期、復旧復興期 ④避難所、仮設住宅、復興住宅での看護	講義	
	3. 災害時に必要な看護技術を習得できる。	(1) 災害発生時の看護	①災害時必要な看護技術 《災害発生時指示に従った行動》 《トリアージ》 《小児の心肺蘇生》 《心肺蘇生（AEDを含む）》 《救急技術（止血法、包帯法）》	講義 演習	
テキスト・参考文献		「ナースィング・グラフィカ 看護の統合と実践 ③ 災害看護」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	統合分野	授業科目名	看護技術評価	担当講師		
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験		
授業の目的及びねらい		限られた時間の中で、複数の対象者に必要な看護を実践するための能力を養う。				
授業のキーワード		時間管理 優先順位 複数対象者の援助 状況に応じた援助 多重課題				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. チームの一員として対象に必要な看護を実施する方法について理解できる。	(1) 一日の業務の組立て	①複数対象者を受け持つための情報収集・管理 ②一日のスケジュールの立案と業務時間の管理 タイムスケジュールの作成 複数対象者への援助の優先順位の決定 業務に要する時間の把握 人的資源とチームメンバーとの協力	講義		
		(2) 多重課題への対処	①多重課題とは ②多重課題遂行時の危険性 ③多重課題発生時の対処の原則	講義		
	2. 複数の対象者の行動計画を作成する方法を習得できる。	(1) 一日の行動計画の作成	①複数の対象者の事実分析 ②複数の対象者の行動計画を作成 ③行動計画における時間管理、優先順位の根拠の明確化	講義 演習		
		(2) 複数の対象者の状況に応じた行動計画の立案	①事例を用いた行動計画の立案 複数対象者の状況と看護計画の把握 複数対象者の状況に応じた行動計画の立案 優先順位の決定とその根拠の明確化	講義 演習		
	3. 複数の対象者の状況に応じて看護を実施・評価する方法を習得できる。	(1) 複数の対象者の状況に応じた援助の実施と評価	①複数の対象者の状況に応じた援助の実施 状態観察における援助 状態にあわせた観察とアセスメント <複数対象者の状態観察シミュレーション> ②複数の対象者の状況に応じた援助の評価 優先順位の妥当性、時間管理の妥当性 状況に応じ援助方法の変更、行動計画の修正	講義 演習 講義		
		(2) 多重課題発生時の対処の実際と評価	①多重課題発生時の援助の実施 多重課題の状況把握と判断 多重課題への対処 <多重課題シミュレーション> ②多重課題発生時の援助の評価 優先順位の妥当性、時間管理の妥当性 受持ち時に必要な情報、チームの連携	講義 演習 講義		
テキスト・参考文献		「新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全」 メヂカルフレンド社				
成績評価の方法		課題 30% レポート 70%				

実習名 統合実習

時 期	3年後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：既習の学習を統合し、専門職として看護が実践できる能力を養う。

目 標	行動目標
1. 看護管理の実際を理解できる。	1. 病棟師長業務の見学をとおして、師長業務の実際と役割を述べることができる。 2. リーダー業務の見学をとおして、リーダー業務の実際と役割を述べることができる。 3. メンバー業務の体験をとおして、チームの一員としての役割を述べるができる。
2. 複数の対象者に対して看護を実践できる。	1. 複数の対象者の現在の状況を把握し述べるができる。 2. 複数の対象者における1日の行動計画を、優先順位を考慮して立案できる。 3. 複数の対象者に対して、実施前に対象者の状況を確認し必要時は援助の変更ができる。 4. 複数の対象者に対して、実施時に対象者へ説明し同意を得ることができる。 5. 複数の対象者に対して、対象者の状況に応じた援助を反応を確認しながら実施できる。 6. 複数の対象者に対して、優先順位を考慮し適切な時間内で援助が実施できる。 7. 複数の対象者の日々の看護を評価できる。 8. 複数の対象者の援助を実施して、優先順位の判断と時間管理の妥当性を評価できる。
3. 看護チームの一員として調整・報告ができる。	1. 1日の行動計画の調整ができる。 2. 対象者の状況と援助の進行状況について報告・調整できる。
4. 専門職である看護師をめざすものとして基本的な態度をとることができる。	1. 看護師として人間関係形成のための行動をとることができる。 2. 看護師としての自己課題を明確にできる。

## VI 事例のマトリックス



## VI 事例のマトリックス

領域	基礎看護学	成人看護学	成人看護学	成人看護学
講義時期	1年次・後期	2年次・前期	2年次・前期	2年次・後期
発達段階・性	老年期・男性	中年期・男性	中年期・女性	中年期・男性
疾患	細菌性肺炎	急性心筋梗塞	脳梗塞	糖尿病
疾病の経過	回復期	急性期	回復期	慢性期
症状	呼吸困難  分泌物増加  咳嗽	胸痛  脂質異常症	高血圧  脂質異常症  運動機能障害  感覚障害	高血糖  脂質異常症  糖尿病神経障害
治療・処置	薬物療法  安静療法	経皮的冠状動脈インター ベーション  安静療法  薬物療法(内服・輸液)	理学療法  薬物療法(内服)	食事療法  薬物療法(インスリン・内服)  運動療法

老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期
老年期・女性	幼児期・男児	壮年期・女性(経産婦)	壮年期・女性	老年期・女性
大腿骨頸部骨折	気管支喘息	正常分娩	統合失調症	脳梗塞後遺症
急性期～回復期	急性期	産褥期・新生児期	慢性期	慢性期
術後せん妄  脱臼	不機嫌  呼吸困難  咳嗽  喘鳴	<生理的变化> <生理的变化>  子宮底の変化 体重減少  悪露の変化 黄疸  乳汁分泌  心理的变化	意欲低下  関心の低下  幻覚(幻聴)  妄想  認知機能障害	右片麻痺(不全麻痺)  運動障害  嚥下障害  言語障害
手術療法  理学療法	薬物療法 (輸液・吸入・内服)		薬物療法(抗精神病薬)  社会療法  精神療法	薬物療法  経管栄養(胃瘻)

## VII 看護技術のマトリックス

Ⅶ 看護技術のマトリックス

項目		当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学		成人看護学
1	環境調整	①患者にとって快適な病床環境をつくることができる	I	基礎在宅	講義 環境人間学	演習 環境整備	
		②基本的なベッドメイキングができる	I	基礎		演習 ベッドメイキング	
		③臥床患者のリネン交換ができる	II	基礎		演習 寝衣リネン交換	
2	食事の援助	①患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	基礎老年		演習 食事介助	
		②患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	基礎		講義	
		③経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	在宅			
		④患者の栄養状態をアセスメントできる	II	基礎		講義	
		⑤患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	成人			講義
		⑥患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	成人			講義
		⑦患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	在宅			
		⑧モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	在宅			
		⑨電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	基礎		講義	
		⑩患者の食生活上の改善点が変わる	IV	成人			講義
3	排泄援助	①自然な排便を促すための援助ができる	I	基礎老年		講義	
		②自然な排尿を促すための援助ができる	I	基礎老年		講義	
		③患者に合わせて便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	基礎		演習 便・尿器の使い方	
		④膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	基礎在宅		講義	
		⑤ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	基礎		演習 ポータブルトイレでの排泄援助	
		⑥患者のおむつ交換ができる	II	老年			
		⑦失禁をしている患者のケアができる	II	老年在宅			
		⑧膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	基礎在宅		演習 膀胱留置カテーテル管理	
		⑨モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	基礎在宅		演習 導尿	
		⑩モデル人形にグリセリン浣腸ができる	III	基礎		演習 浣腸	
		⑪失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	在宅			
		⑫基本的な摘便の方法、実施上の留意点が変わる	III	老年			
		⑬ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点が変わる	IV	在宅			
4	活動・休息援助	①患者を車椅子で移送できる	I	基礎		演習 車椅子の移乗・移送	
		②患者の歩行・移動介助ができる	I	基礎		演習 安楽な体位・体位変換移動と移送	
		③廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	老年			
		④入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	基礎		講義	
		⑤患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	基礎		講義	
		⑥臥床患者の体位変換ができる	II	基礎在宅		演習 体位変換	
		⑦患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II	基礎成人在宅		演習 車いすの移乗	講義
		⑧廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	老年			
		⑨目的に応じた安静保持の援助ができる	II	基礎		演習 安楽な体位の保持	
		⑩体動制限による苦痛を緩和できる	II	基礎		演習 安楽な体位の保持	
		⑪患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II	基礎		演習 ストレッチャーの移乗	
		⑫患者のストレッチャー移送ができる	II	基礎		演習 ストレッチャーの移送	
		⑬関節可動域訓練ができる	II	基礎 講義	リハビリテーション論	演習 関節可動域の測定	
		⑭廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	IV	老年			
5	清潔・衣生活援助	①入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	基礎在宅		講義	
		②患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	基礎		演習 手浴、足浴	
		③清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	基礎		演習 全身清拭	
		④洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	基礎		演習 洗髪	
		⑤口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	基礎		演習 口腔ケア	
		⑥患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	基礎		講義	
		⑦持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	基礎		演習 寝衣交換、寝衣リネン交換	
		⑧入浴の介助ができる	II	基礎在宅		講義	
		⑨陰部の清潔保持の援助ができる	II	基礎在宅		演習 陰部洗浄	
		⑩臥床患者の清拭ができる	II	基礎		演習 全身清拭	
		⑪臥床患者の洗髪ができる	II	基礎在宅		演習 洗髪	
		⑫意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	基礎		演習 口腔ケア	
		⑬患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II	老年在宅			
		⑭持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	成人			演習 輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換
		⑮沐浴が実施できる	II	母性			

	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
1	①				講義	
	②					
	③					
2	①	講義				
	②					
	③				演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦				演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	⑧				演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	⑨					
	⑩					
3	①	講義				
	②	講義				
	③					
	④				講義	
	⑤					
	⑥	演習	おむつ交換			
	⑦	演習	おむつ交換		演習	在宅における陰部洗浄
	⑧				講義	
	⑨					
	⑩					
	⑪				講義	
	⑫	演習	モデル人形で排便			
	⑬				講義	
4	①					
	②					
	③	講義				
	④					
	⑤					
	⑥				演習	福祉用具を使用した体位変換
	⑦				演習	福祉用具を使用した移乗
	⑧	講義				
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭	講義				
5	①				講義	
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧				演習	在宅における入浴介助
	⑨				演習	在宅における陰部洗浄
	⑩					
	⑪				演習	在宅における洗髪
	⑫					
	⑬	講義			講義	
	⑭					
	⑮			演習	沐浴	

項目		当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	成人看護学	
6	呼吸循環を整える技術	①酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	基礎在宅	講義		
		②患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I	基礎	講義		
		③患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	基礎	講義		
		④末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる	I	基礎	演習	手浴・足浴	
		⑤酸素吸入療法が実施できる	II	基礎小児	演習	酸素吸入	
		⑥気道内加湿ができる	II	基礎小児	演習	吸入	
		⑦モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	成人			演習
		⑧モデル人形で、気管内吸引ができる	III	成人			演習
		⑨モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	成人			演習
		⑩酸素ポンペの操作ができる	III	基礎	演習	酸素ポンペの取り扱い	
		⑪気管内吸引時の観察点が変わる	IV	成人			講義
		⑫酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる	IV	基礎	講義		
		⑬人工呼吸器装着中の患者の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
		⑭低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点が変わる	IV	成人			講義
		⑮循環機能のアセスメントの視点がわかる	IV	基礎	講義		
7	創傷管理	①患者の褥瘡発生の危険性をアセスメントできる	I	基礎在宅	講義		
		②褥瘡予防のためのケアが計画できる	II	基礎在宅	講義		
		③褥瘡予防のためのケアが実施できる	II	基礎在宅	講義		
		④患者の創傷の観察ができる	II	成人			講義
		⑤学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	基礎統合	演習	包帯法	
		⑥創傷処置のための無菌操作ができる(ドレイン類の挿入部の処置も含む)	III	成人			演習
		⑦創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	IV	基礎成人	講義		講義
8	与薬	①経口薬(パッカ錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	基礎精神	講義		
		②経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	基礎	講義		
		③直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	基礎	講義		
		④点滴静脈内注射をうけている患者の観察点が変わる	II	基礎	講義		
		⑤モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III	基礎	演習	直腸内与薬	
		⑥点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III	基礎小児	講義		
		⑦モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形で皮下注射	
		⑧モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形で筋肉注射	
		⑨モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III	基礎	演習	モデル人形に点滴静脈内注射	
		⑩輸液ポンプの基本的な操作ができる	III	基礎	演習	医療機器の取り扱い	
		⑪経口薬の種類と服用方法がわかる	III	基礎小児	講義		
		⑫経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV	基礎	講義		
		⑬中心静脈内栄養を受けている患者の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
		⑭皮内注射後の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
		⑮皮下注射後の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
		⑯筋肉内注射後の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
		⑰静脈内注射の実施方法がわかる	III	基礎	講義		
		⑱薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV	基礎	講義		
		⑲静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV	基礎	講義		
		⑳抗生物質を投与されている患者の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
		㉑インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV	成人			講義
		㉒インシュリン製剤を投与されている患者の観察点が変わる	IV	成人			講義
		㉓麻薬を投与されている患者の観察点が変わる	IV	成人			講義
		㉔薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	IV	基礎	講義		
		㉕輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点が変わる	IV	基礎	講義		
9	救命救急処置	①緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	統合			
		②患者の意識状態を観察できる	II	統合			
		③モデル人形で気道確保が正しくできる	III	統合			
		④モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	統合			
		⑤モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III	統合			
		⑥除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	統合			
		⑦意識レベルの把握方法がわかる	IV	基礎統合	講義		
		⑧止血法の原理がわかる	IV	統合			

	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
6	①				講義	
	②					
	③					
	④					
	⑤		講義			
	⑥		演習 吸入療法			
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭					
	⑮					
7	①				講義	
	②				講義	
	③				演習 褥瘡予防	
	④					
	⑤					演習 包帯法
	⑥					
	⑦					
8	①			講義		
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥		演習 輸液管理			
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪		演習 与薬方法			
	⑫					
	⑬					
	⑭					
	⑮					
	⑯					
	⑰					
	⑱					
	⑳					
	㉑					
	㉒					
	㉓					
	㉔					
	㉕					
	9	①				
②						演習
③						演習
④						演習
⑤						演習
⑥						演習
⑦						講義
⑧						講義
						心肺蘇生 (AEDの使用) (トリアージ)

項目		当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学		成人看護学	
10	症状・ 生体 機能 管理	①バイタルサインが正確に測定できる	I	基礎 小児 母性		演習	バイタルサインの測定	
		②正確に身体計測ができる	I	基礎 小児 母性		講義		
		③患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	基礎		講義		
		④系統的な症状の観察ができる	II	基礎		演習	フィジカルイグザム	
		⑤バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II	基礎 母性		講義		
		⑥目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	基礎 小児		講義		
		⑦簡易血糖測定ができる	II	成人				演習 簡易血糖測定
		⑧正確な検査が行えるための患者の準備ができる	II	基礎		講義		
		⑨検査の介助ができる	II	基礎 小児		講義		
		⑩検査後の安静保持の援助ができる	II	基礎		講義		
		⑪検査前、中、後の観察ができる	II	基礎		講義		
		⑫モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	基礎		演習	モデル人形で採血	
		⑬血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	IV	基礎		講義		
		⑭身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV	基礎		講義		
11	感染予 防	①スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	基礎		講義 演習	手洗い	
		②必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	II	基礎		講義 演習	手袋・エプロンの装着	
		③使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	基礎		演習	(針を使う技術)	
		④感染性廃棄物の取り扱いができる	II	基礎		演習	(針を使う技術)	
		⑤無菌操作が確実にできる	II	基礎		演習	無菌操作	
		⑥針刺し事故防止の対策が実施できる	II	基礎 統合		演習	(針を使う技術)	
		⑦針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	IV	基礎 統合	講義 薬理学	講義		
12	安全 管理	①インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	統合				
		②災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる。	I	統合				
		③患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	基礎 統合		演習	各基礎看護技術演習	
		④患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	基礎 小児 精神統合		講義		
		⑤患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	基礎 成人 老年 小児 精神 統合		講義		講義
		⑥放射線暴露の防止のための行動がとれる	II	基礎		講義		
		⑦誤薬防止の手順に沿った与薬ができる	III	基礎 成人 統合		演習	与薬方法	講義
		⑧人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	成人 統合				講義
13	安楽	①患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	基礎		演習	体位変換	
		②患者の安楽を促進するためのケアができる	II	基礎		演習	体位変換	
		③患者の精神的安楽を保つための工夫を計画できる	II	基礎 精神		講義		



	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
10	①		講義	演習	バイタルサイン測定	
	②		講義	講義		
	③					
	④					
	⑤			講義		
	⑥		講義			
	⑦					
	⑧					
	⑨		演習	骨髄穿刺・腰椎穿刺		
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭					
11	①					
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					講義
	⑦					講義
12	①					講義
	②					講義
	③					講義
	④		講義		講義	演習
	⑤	講義	講義		講義	演習
	⑥					
	⑦					講義
	⑧					講義
13	①					
	②					
	③				講義	

1. この表の「項目」は『平成23年度 看護教育の内容と方法に関する検討会』で出された内容を明示している。

2. 「当校の卒業時到達レベル」は厚生労働省から示されたものを参考にしている。

- |  |
|--|
| <p>I : 単独で実施できる</p> <p>II : 看護師・教員の指導のもと実施できる</p> <p>III : 学内演習で実施できる</p> <p>IV : 知識としてわかる</p> |
|--|